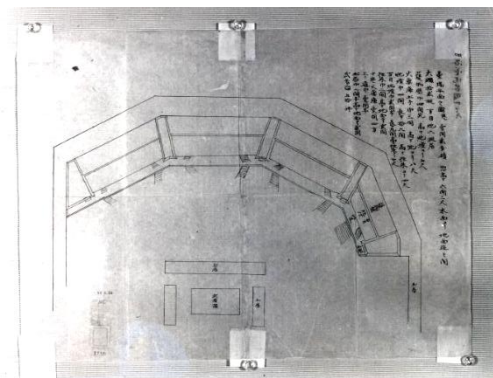




加路台場



加路台場絵図



加路台場略図控

台場は、幕末から明治維新期にかけて全国で約千基築造されたとされています。

賀露は鳥取城下を流れる千代川の河口左岸という要衝の地であったことや、北前船の寄港地という当時の流通の要所でもあったことから、東西に「稜堡式」と呼ばれる西欧流の二つの台場が造られ、藩内の八橋（やばせ）郡瀬戸村にあった六尾（むつお）反射炉で鑄造された大砲が、あわせて8門備えられました。

文久3(1863)年、西洋流砲術家中本軍太夫が「賀露東浜御台場」の「普請請懸」に、西洋流砲術家安場敬之丞が「御台場御普請御用懸」に任命され、賀露西台場の立地選定と設計を担当しました。

同年、藩内8ヶ所（因幡国3ヶ所、伯耆国5ヶ所）で台場築造に着手し、翌、元治元（1864）年完成しました。

設置された位置は不明ですが、賀露誌に掲載されている記録や県立博物館所蔵の図を見ると米倉、民宿あみお付近ではないかと思われます。



出典 鳥取県ホームページ

[鳥取市賀露神社会館でお台場についてお話ししました。/とりネット/鳥取県公式サイト](#)